



高橋巧がポールtoフィニッシュで3連勝! ヤマハ同士の2位争いは中須賀が制す!!

JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

全日本ロードレース選手権は、宮城県・スポーツランドSUGOでシリーズ第3戦を迎えた。第2戦鈴鹿2&4レースは、JSB1000クラスのための開催となったため、ST600クラス、J-GP2クラス、J-GP3クラスは、開幕戦以来、約2カ月振りのラウンドとなる。逆にJSB1000クラスは、第4戦筑波の開催がないため、今回のSUGOラウンドがシリーズ前半戦の最後のレースとなり、これが終われば鈴鹿8耐に向けて一気に舵をとって行くことになる。

開幕戦ツインリンクもてぎ、第2戦鈴鹿2&4、そして今回のSUGOラウンドとJSB1000クラスは、土曜日に公式予選とレース1、日曜日にレース2という2レース制で行われてきた。開幕戦は、中須賀克行が高橋巧との一騎打ちを制しダブルウインを飾ったが、第2戦では、高橋が2レースとも独走で制し、一気に流れが変わった。一方の中須賀は、レース1で痛恨の転倒を喫し、レース2では、マシントラブルを抱えながらも2位争いを制したが、ノーポイントは大きく第2戦終了時の暫定ランキングは、トップの高橋が94ポイント、中須賀は22ポイント差のランキング4位となっていた。

2週間前に行われた事前テストでも高橋の速さは変わらず非公式ながらサーキットベストを更新。中須賀は、高橋に対抗するために、今までと違うセットを

試してレベルアップをすべく、いろいろ試していたのだが…。

レースウィークは、金曜日から快晴となり、気温も上昇。初夏を思わせる陽気となり、予想以上に路面温度が上がったため、事前テストのときに比べてグリップがよくない、と多くのライダーがコメントしていたように、タイムは伸び悩んでいた。その中でも高橋は、セッションをリードして行く。一方、中須賀は、セッション毎に違うセットを試し、なかなかセットをまとめられずにいた。

土曜日に行われた公式予選でも高橋の速さは変わらず、ただ一人1分25秒台に入れる1分25秒641の新コースレコードをマーク。セカンドタイムも1分25秒718をマークしダブルポールポジションを獲得した。中須賀はチームメイトの野左根航汰に続く3番手と思うように高橋との差を縮められないままレース1を迎えることになっていた。

路面温度は48度と5月にしては、かなり高めのコンドیشنの中、25周先のゴールを目指してスタートが切られた。ポールポジションの高橋は、スタートを決めホールショットを奪い、5番手グリッドの加賀山就臣が2番手、渡辺一馬、野左根、中須賀、水野涼、渡辺一樹、岩戸亮介、前田恵助、羽田太河、秋吉耕

佑、生形秀之、関口太郎と続いて2コーナーを立ち上がった。高橋は、オープニングラップから飛ばし、2番手以下を引き離して行く。2周目に野左根と中須賀は加賀山をかわし、それぞれ2番手、3番手に浮上し、前を追うが、高橋は、4周目にベストラップをマークし、さらに引き離し独走態勢を確実なものにして行く。2位争いを野左根と中須賀が繰り広げ、その後方では、またも渡辺一馬、渡辺一樹対決となっていたが、今回は、ここに水野が加わる。14周目のシケインでは、渡辺一樹が痛恨の転倒。再スタートするもののピットインし戦列を離れている。

トップを走る高橋は、コンスタントに1分26秒台で周回し、ポールtoフィニッシュで3連勝を飾った。2位争いは、中須賀が制し、野左根が3位。4位には、水野が渡辺一馬とのバトルを制してゴール。6位に加賀山、7位に岩戸、8位に前田、9位に秋吉、10位に関口と続いてゴール。15位までがトップと同一周回でチェッカーフラッグを受けた。

日曜日は、さらに気温が上がり真夏になる予報となっている。ライダーにとってもマシンにとっても厳しいコンディションとなりそうだが、高橋の優位は変わらないか!? ヤマハファクトリーが一矢を報いるか!? JSB1000クラスのレース2は、14:00スタート!

JSB 1000



レース1ポールポジション: R 1'25.641
レース2ポールポジション: R 1'25.718
#13 高橋 巧
Team HRC

『事前テストで、ある程度マシンを仕上げる事ができていたのですが、レースウィークで、ここまで路面温度が上がるとは想定外でした。何とかアジャストできてコースレコードを出す事ができましたし、レースでも、スタートを失敗しないで、序盤1、2周で行けるだけ行って、どこまでペースを落とさずに走れるかと言うレース前に思っていたような走りができたのでレース1は満足です。レース2は、レース1以上に暑くなりそうですし厳しいレースになると思いますが、そのコンディションにいかに対応できるかが課題になると思います。もちろん、この調子で連勝記録を伸ばしていきたいですね』

JSB1000 決勝 [Race1] 正式結果表

●予選・決勝[Race1] (25周) / 5月25日 (土) : 天候・路面 / 晴・ドライ

Pos	No	Rider	Team
1	13	高橋 巧	Team HRC
2	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM
3	4	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM
4	634	水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.Honda
5	23	渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN
6	12	加賀山 就臣	ヨシムラスズキMOTUL
7	64	岩戸 亮介	Kawasaki Team GREEN
8	75	前田 恵助	YAMALUBE RACING TEAM
9	090	秋吉 耕佑	au・テルルMotoUP RT
10	44	関口 太郎	Team ATJ
11	35	亀井 雄大	Honda Suzuka Racing Team
12	3	MARK ANDREW AITCHISON	KRP三陽工業&RS-ITOH
13	18	津田 一磨	Team Baby Face
14	87	柳川 明	will-raise racingRS-ITOH
15	19	濱原 颯道	Honda Dream RT 桜井ホンダ
16	46	星野 知也	TONE RT SYNCEDGE4413
17	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ
18	36	今野 由寛	Moto Map SUPPLY
19	30	須貝 義行	チームスガイレーシングジャパン
20	080	羽田 太河	au・テルルMotoUP RT
以上チェッカー—— 以上完走 ——			
	71	津田 拓也	TK SUZUKI BLUE MAX
	26	渡辺 一樹	ヨシムラスズキMOTUL
	70	清末 尚樹	Team WITH 87 KYUSYU
	95	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング・IAI

参加台数:27台 出走台数:24台 完走台数:20台
ベストラップ: 13 高橋 巧 1'26.049 4/25 156.364km/h



JP 250

Presented by
DUNLOP

笠井悠太(INT)2連勝 本郷雅也(NAT)初優勝!

2019 MFJカップJP250選手権 第2戦SUGOの決勝レースは、ポールポジションの笠井悠太がリードし、予選4番手の中村龍之介が続き、さらに同2番手の森俊也、同8番手の佐々木将旭を加えた4台で激しく争われた。後方では複数台による5位争い。

11周目に森と佐々木が転倒し、笠井が優勝、2位に中村、3位には後方でバトルを展開していた本郷雅也が入った。

(写真:決勝レースでの4台によるトップ争い)



決勝正式結果(12周 / 上位10位)

●5月25日 (土) 予選・決勝 天候 / 晴 路面 / ドライ 出走26台

Pos	No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	20	I	笠井 悠太	TEAM TEC.2	20'59.259
2	37	I	中村 龍之介	ENDLESS TEAM SHANTI	20'59.987
3	38	N	本郷 雅也	GO&FUNRacingTeamKYOEI	21'08.450
4	31	N	富田 一輝	ATJ-Racing & NMC	21'10.296
5	22	N	岡部 怜	Team i-FACTORY	21'17.846
6	55	I	中沢 寿寛	i-FACTORY&Mガレージ	21'19.288
7	49	N	松岡 玲	キジマKISSレーシングチーム	21'19.755
8	56	N	櫻井 芽依	キジマKISSレーシングチーム	21'32.645
9	11	I	豊島 智博	RS-ITOH	21'33.800
10	71	I	赤間 清	SDG Mistresa RT HARC-PRO.	21'42.530

J-GP2

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

作本輝介がクラス初ポールポジション獲得! 「一番のライバルは自分自身。レースは行けるところまで行く!」



作本輝介

阿部恵斗が復帰し、レギュラーメンバー10名が揃ったJ-GP2クラス。35分のセッション中盤にトップに立ったのは1分30秒312をマークした作本輝介だった。その後に尾野弘樹が30秒4、名越哲平が30秒6と3人が30秒台に入れる。

終盤に入ると各ライダーともタイムを更新。作本もタイムを削り、30秒122までタイムアップ、名越が30秒358で2番手に浮上、尾野の30秒420に続いて岩崎哲

朗も30秒963と30秒台に入れて4番手につけてきた。

そして残り時間も僅かとなったセッションで作本が自身のレコードタイムに迫る29秒941をマークしてポールポジションを確実にした。

2番手は再び名越を逆転した尾野が30秒168、岩崎も30秒251までタイムを上げて3番手フロントロウに入った。名越は4番手、終盤に30秒978まで上げた榎戸育寛が5番手、31秒500で徳留真紀と続いた。



ポールポジション: 1'29.941
#4 作本輝介
Team 高武 RSC

『事前テストからいい流れでしたが、そこからコンディションが大幅に変わってしまい、フィーリングはイマイチだったんですけど、何とかタイムは出せました。本当はもう少しタイムを詰められたらいいなと思っていたんですけど、各セクターですべてをうまく合わせられなくてツキの無い部分もありました。29秒台自体は昨年の決勝で出ていたので(レコードタイムの1分29秒923)、29秒前半までは行きたかったんですが、本来なら今年それを上回らないと…。そこが残念です。前回もてぎは凄く悔しかったので、今回はその分まで明日の決勝で取り戻します!自分が一番のライバルだと思っているので、それに打ち勝って行けるところまでいくつもりで頑張ります!』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



長尾健吾がレコード更新でポールポジション獲得! 「粘り強い走りができれば、必ず結果はついて来る!」



長尾健吾

ST600クラスの公式予選も序盤、ライバルが激しく火花を散らした。#1を付け開幕勝利を挙げている岡本裕生と昨年ランキング2位の小山知良だ。使えるタイヤも1セット、1アタックの中、序盤に小山が1分31秒226でトップ、岡本も31秒227でそれに続いた。3番手にはスポット参戦の横江竜司が31秒256と健在ぶりを見せた。

その中で、慎重なアタックをするためにやや遅れてコースインしたのが、開幕戦で岡本の後塵を拝した長

尾健吾だった。ところが、アタックの周にフロントからスリップダウン。幸いにしてバイクは軽傷だったため、ビットに戻った後にアタックを続行。そのワンチャンスにかけたアタックが成功し、31秒080のニューレコードタイムでポールポジションを獲得したのだ。

2番手は小山、3番手に岡本と続き、横江がペナルティでタイム抹消により後退したため、長尾健史（健吾のチームメイトで実弟）が4番手、31秒518で伊藤和輝、31秒543で國峰琢磨と続いた。



ポールポジション：1'31.080 R
#50 長尾健吾
NCXXRACING&善光会 TEAMいけんけん

『予選は台数も多くてセッションの序盤にタイムを出そうとして転倒するライダーもいるので、少しタイミングをずらして、集中してアタックしようと思い、遅れて10分くらいして出て行ったんですよ。アタックを開始して「少し行き過ぎかな?」とも思ったんですが…。スリップダウンしてしまったんです。幸いバイクも軽傷だったので、ビットに戻って砂を落としたりで、タイヤもまだイケそうだったので、1周だけアタックするつもりで出て行きました。バイクも気になったので、集中して走って、幸いクリアラップもとれて、この結果になりました。テストの時から周回を重ねて行った時のタイヤの使い方は分かっているので、決勝では粘り強い走りができれば結果はついて来ると思っています。自分が前に出てレースを引っ張って行けるようにしたいですね』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

福嶋佑斗が全日本初ポールポジション! 「スタートから自分が前に出てレースをリードしていきたい!」



福嶋佑斗

快晴に恵まれたスポーツランドSUGO。全日本J-GP3の公式予選では、序盤からトップに立った高杉奈緒子、長谷川聖、福嶋佑斗らが順位を入れ替えながらセッションが進んだ。中盤にかけて3番手だった長谷川が1分35秒559でトップを奪うと、後半にかけてアタック合戦が激しくなる。

高杉が35秒454、福嶋も35秒395とタイムを更新し、順位が入れ替わる。他にも中山愛理が35秒682、

藤井謙汰35秒789、成田彬人が35秒847と35秒台に入れてくるが、福嶋のタイムが更新されることはなく、セッションが終了するかと思われた。

しかし、最終チェッカー周に長谷川が35秒306をマークして福嶋を逆転するが、黄旗追越違反でベスト3タイム抹消のペナルティとなったため、3位へ後退することに。結局福嶋が全日本初のポールポジションを獲得することに。2番手は高杉となった。



ポールポジション：1'35.395
#88 福嶋佑斗
Team Plusone+f

『最初ビットに戻ったら「2位だよ」って言われてがっかりだったんです。最後にもう一回アタックしたかったんですが、台数も多くて出来なくて…。しょうがないかな、とあきらめていました。しかし、中でも良いアベレージタイムを刻めていたので、決勝に向けては手応えはあります。テストからレースウィークに入って昨日の練習走行まで感触も良く、この予選につながっていたんだと思っています。決勝レースは長谷川選手が逃げ切りのレースを仕掛けて来ると思うので、そうさせないようにスタートから自分が前に出てレースをリードしてけるようにしたいと思います!!』

MFJ Superbike Round 3 SUPERBIKE RACE in SUGO 25 - 26 May 2019

公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走27台
●決勝[Race2]スタート進行/14:00 (25周)

JSB1000[Race2] 公式予選 セカンドラップタイム 正式結果表

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	13	高橋 巧	Team HRC	CBR1000RR SP2	1'25.718
2	4	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	1'26.118
3	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	1'26.339
4	23	渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN	Ninja ZX-10RR	1'26.459
5	64	岩戸 亮介	Kawasaki Team GREEN	Ninja ZX-10RR	1'26.632
6	634	水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.Honda	CBR1000RR SP2	1'26.728
7	26	渡辺 一樹	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000L9	1'26.763
8	12	加賀山 就臣	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000L9	1'26.782
9	75	前田 恵助	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'27.114
10	44	関口 太郎	Team ATJ	CBR1000RR SP2	1'27.999
11	090	秋吉 耕佑	au・テルルMotoUP RT	CBR1000RR SP2	1'28.158
12	95	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング・IAI	GSX-R1000	1'28.366
13	35	亀井 雄大	Honda Suzuki Racing Team	CBR1000RR SP2	1'28.414
14	3	MARK ANDREW AITCHISON	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-10RR	1'28.537
15	18	津田 一磨	Team Baby Face	YZF-R1	1'28.668
16	46	星野 知也	TORE RT SYNCEDGE4413	S1000RR	1'28.790
17	080	羽田 太河	au・テルルMotoUP RT	CBR1000RR SP2	1'28.915
18	71	津田 拓也	TK SUZUKI BLUE MAX	GSX-R1000	1'28.999
19	19	濱原 颯道	Honda Dream RT 桜井ホンダ	CBR1000RR SP2	1'29.068
20	36	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	GSX-R1000R	1'29.272
21	87	柳川 明	will-raise racingRS-ITOH	ZX-10RR	1'29.356
22	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'29.807
23	70	清末 尚樹	Team WITH 87 KYUSYU	ZX-10RR	1'31.032
24	30	須貝 義行	チームスガイレシングジャパン	RSV4RF	1'31.274
----- 以上予選通過 -----					
	89	芦名 秀美	team TJC中華そば太平楽	ZX-10RR	1'34.241
	43	菊地 敦	TEAM・WILD☆HEART	YZF-R1	1'35.588
	55	笹原 隆男	片倉オート商会☆YSP横浜南☆ESUO	YZF-R1	1'36.671

参加台数:27台 出走台数:27台

予選通過基準タイム (108%) 1'32.885



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走27台
●決勝スタート/10:45 (20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	88	福岡 佑斗	Team Plusone+f	NSF250R	1'35.395
2	20	高杉 奈緒子	41PLANNING	RC250R	1'35.454
3	36	長谷川 聖	CLUB Y's	NSF250R	1'35.634
4	14	中山 愛理	TEAM SHOTA	NSF250R	1'35.682
5	5	藤井 謙汰	Kohara Racing Team	NSF250R	1'35.789
6	71	成田 彬人	Team P.MU 7C MIKUNI	NSF250R	1'35.847
7	34	細谷 翼	Team SRS-Moto	NSF250R	1'36.037
8	13	岡崎 静夏	Kohara Racing Team	NSF250R	1'36.050
9	18	安村 武志	犬の乳酸菌jp/ブリミティブRT	PRCS3d	1'36.077
10	11	鈴木 大空翔	BATTLE FACTORY	NSF250R	1'36.194
11	392	村瀬 健琉	ミクニ テリー&カリ	NSF250R	1'36.362
12	17	太田 虎之進	WJ-FACTORY	NSF250R	1'36.643
13	9	山本 恭裕	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R	1'36.941
14	29	Senna Agius	MIE Racing	NSF250R	1'37.400
15	15	野澤 秀典	ノザレーシングファミリー	NSF250R	1'37.704
16	32	三好 菜摘	RG NIWA with オーテック・スズカ	NSF250R	1'38.012
17	21	村田 憲彦	CLUB Y's	NSF250R	1'38.517
18	16	白石 玲菜	Dreamline Plusone	NSF250R	1'38.607
19	73	Dheyo Wahyu	Team P.MU 7C MIKUNI	NSF250R	1'38.815
----- 以上予選通過 -----					
	41	宇井 陽一	41PLANNING	RC250R	計測出来ず

参加台数:20台 出走台数:20台

予選通過基準タイム (108%) 1'43.134



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走10台
●決勝スタート/13:50 (20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	4	作本 輝介	Team 高武 RSC	MD600	1'29.941
2	392	尾野 弘樹	ミクニ テリー&カリ	GSX-R	1'30.168
3	70	岩崎 哲朗	OGURA CLUTCH with RIDE IN	ZX-6R	1'30.251
4	634	名越 哲平	MuSASHi RT HARC-PRO.	HP6-q	1'30.358
5	71	榎戸 育寛	SDG Mistresa RT HARC-PRO.	HP6-q	1'30.978
6	36	徳留 真紀	マルマエMTR	HP6	1'31.500
7	22	小谷 咲斗	TEAM PLUSONE with TARO	HP6q	1'31.727
8	14	阿部 怜	Webikeチームノリックヤマハ	YN6	1'31.798
9	18	豊島 怜	Speed Heart DOGFIGHTR YAMAHA	YZF-R6	1'32.109
10	19	井手 翔太	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	1'32.615

----- 以上予選通過 -----

参加台数:10台 出走台数:10台

予選通過基準タイム (108%) 1'37.330

Supported by BRIDGESTONE



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走44台
●決勝スタート/15:20 (20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	50	長尾 健吾	NCXXRACING&善光会 TEAMけんけん	YZF-R6	1'31.080 R
2	230	小山 知良	日本郵便 HondaDream TP	CBR600RR	1'31.226
3	1	岡本 裕生	51ガレージ ニトロレーシング	YZF-R6	1'31.227
4	45	長尾 健史	TEAMけんけん with BEE	YZF-R6	1'31.492
5	77	伊藤 和輝	TeamTJC 中華そば太平楽	ZX-6R	1'31.518
6	55	國峰 琢磨	日本郵便HondaDream TP	CBR600RR	1'31.543
7	6	南本 宗一郎	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	1'31.550
8	12	古山 颯太	伊藤レーシングBORG カスタム	YZF-R6	1'31.739
9	54	荒川 晃大	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'31.791
10	25	日浦 大治朗	Honda Suzuki Racing Team	CBR600RR	1'31.884
11	39	和田 留佳	will-raise racingRS-ITOH	ZX-6R	1'31.903
12	57	奥田 教介	Team MF & Kawasaki	ZX-6R	1'32.012
13	340	岡村 光矩	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-6R	1'32.039
14	64	伊達 悠太	BATTLE FACTORY & KIMA Racing	CBR600RR	1'32.191
15	97	佐野 優人	BATTLE FACTORY	CBR600RR	1'32.204
16	62	横江 竜司	Shop Union TOUHO	YZF-R6	1'32.424
17	48	横山 尚太	ガレージL8 Racing Team	YZF-R6	1'32.427
18	17	仲村 優佑	AKENO SPEED・YAMAHA	YZF-R6	1'32.475
19	98	佐野 勝人	チーム阪神ライディングスクール	ZX-6R	1'32.566
20	43	砂泊 孝太	TEAM PLUSONE	YZF-R6	1'32.567
21	40	菅原 陸	保険職人GBSレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'32.593
22	41	田所 隼	Honda Suzuki Racing Team	CBR600RR	1'32.606
23	420	岩田 悟	日本郵便 HondaDream TP	CBR600RR	1'32.617
24	47	鈴木 光来	ENDLESS TEAM SHANTI	CBR600RR	1'32.757
25	71	上原 大輝	SDG Mistresa RT HARC-PRO.	CBR600RR	1'32.784
26	69	中村 竜也	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6R	1'33.157
27	53	家根谷 大晟	Team MF & Kawasaki	ZX-6R	1'33.210
28	51	関野 海斗	51ガレージ ニトロレーシング	YZF-R6	1'33.232
29	090	齊藤 魁	au・テルル MotoUP RT	CBR600RR	1'33.326
30	35	渡部 裕貴	RT森のくまさん佐藤塾&ガレージL8	YZF-R6	1'33.422
31	14	行村 和樹	Kohara Racing Team	CBR600RR	1'33.480
32	28	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	1'33.513
33	46	中島 元気	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR600RR	1'33.759
34	96	Stefan Hill	TEAM VITAL SPIRIT	YZF-R6	1'33.831
35	88	名越 公助	TEAM PLUSONE with TARO	YZF-R6	1'34.091
36	52	鈴木 孝志	51ガレージ ケイマックスレーシング	YZF-R6	1'34.199
37	36	丹羽 貴大	伊藤レーシングBORG カスタム	YZF-R6	1'34.318
38	37	長谷川 修大	Honda Suzuki Racing Team	CBR600RR	1'34.343
39	33	櫻井 賢一	MOTO BUM	CBR600RR	1'34.379
40	32	長嶋 修一	大道建設モトアルファ	YZF-R6	1'34.537
----- 以上予選通過 -----					
	22	中山 耀介	TEAM SHOTA	YZF-R6	1'34.776
	38	渡辺 海志郎	DOGFIGHTR SpeedHeart WTP	YZF-R6	1'34.912
	13	杉山 優輝	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	出走せず
	99	辻本 範行	TEAM VITAL SPIRIT	YZF-R6	出走せず

参加台数:44台 出走台数:42台

予選通過基準タイム (108%) 1'38.472

Rマークの車両は、コースレコードを更新しました。従来のコースレコードは1'31.149

INFORMATION



パワーアップして全国無料放送!!

全日本ロードレース選手権、全日本モトクロス選手権をダイジェスト編集。
モーターサイクルスポーツバラエティ「tv.motoちゃんねる」として全国無料放送のBS12で放映!!

●放映予定

■放送:毎月最終土曜日21:30~22:00 (月1回、3月~12月予定)

☆詳しくはBS12(トゥエルビ) <http://www.twellv.co.jp/>



全日本ロードレース選手権全戦・全クラス(JSB1000/J-GP2/ST600/J-GP3 & MFJカップJP250)の予選・決勝をライブ配信! 迫力ある映像をお届けします。
※通信環境により断断续続配信となる場合もあります

インターネットライブ中継&動画配信も充実!!



YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!